



文化財の保存と活用

文化財は、文化的・生活的活動によって生まれ、育まれ、そして今日まで伝えられてきた財産です。

文化財を知ること、歴史に触れ、先人の知恵を学ぶことができます。

文化財の種類

建造物や美術工芸品、伝統芸能や民具のほか、史跡や天然記念物などがあります。それらの中でも特に重要なものは、国、県、市の指定文化財として保護しています。市には、国指定2件、県指定14件、市指定114件の文化財があり、種類別に見ると、建造物、史跡、天然記念物、伝統芸能、彫刻が多くを占めています。

文化財の保存

一方、指定されていないものでも、先人の必要性と創造性から生み出された文化財もあります。特に民具は、その時代の知恵と技術が詰め込まれた生活道具で、現代のようにボタン一つで機能が発揮できるものとは違い、手足の延長として、先人の知恵が形に表れたものとなっています。

文化財の活用

文化財は、平成17年に新旭市になってからも、複数の施設で保管していましたが、収蔵施設の老朽化などにより保存管理が難しくなっていたことから、文化財をひ

かた市民センターに移転し、集約して管理することにしました。

文化財を保存することはもちろんですが、それを広く知ってもらうことも大切です。現在、一般公開するための準備を進めています。文化財は、同じ用途でありながら、時代とともに形や大きさ、装いが変化してきたものと、変化しなかったものがあります。違いを知ることが、先人が何を望んでいたのか、道具をどのように使っていたのか、気付きを得る機会になります。



アニメ映画にも登場する電話機 縄文時代から変わらない形の網針

遺跡も文化財

地中に埋まっている文化財、いわゆる遺跡は、埋蔵文化財として保護しています。古いものでは2万年前の活動痕跡も残っており、開発工事により影響を受けるものについては、発掘調査を実施します。住居やお墓などの不動産は図や写真に記録し、出土した土器や石器などは文化財として保存します。

あさひ輝いた人々

第37回

子どもたちの教育に情熱をささげた人

加瀬 完 (1910~1995年)



完は、教育者として子どもたちを愛し、心の通った教育を実践しました。また、政治家としても活躍した人です。

明治43(1910)年、八日市場町に生まれました。豊畑村和進小学校(現豊畑小学校)の出身で、少年時代を井戸野地区で過ごしました。子ども時代はわんぱくでしたが、小学校時代に一人の教師に認められ、自分もこの人のような教師になりたいと思ったそうです。

昭和5(1930)年、千葉師範学校を卒業し、本銚子小学校の訓導となりました。昭和13(1938)年には28歳の若さで我孫子市立第二小学校の校長になりました。

積極的に授業改善を行い「教育は子どもへの奉仕である。無限の奉仕で子どもは成長する。子どもに喜ばれる

先生になれ」と、よく教師たちに話していたそうです。

昭和22(1947)年から、周囲の薦めもあって政治の道を歩み始めます。千葉県議会議員を6年間務め、戦後復興・教育環境整備・社会福祉の向上に力を注ぎました。

その後、昭和28(1953)年から5期30年にわたり参議院議員を務め、教育政策・地方行財政・公害問題・人権問題などに取り組みました。

昭和52(1977)年には参議院副議長に就任し、長年の国会議員生活で、数々の業績を残しながら、昭和58(1983)年に政界を引退しました。

完は和歌に親しみ、多くの歌も残しています。とりわけ教育や子どもについての歌が多く、昭和60(1985)年には千葉県文化会館付近に、その功績を記念した歌碑が造られています。歌碑には「教師とは悲しきものか 老いつつも ひとりひとりの見ら忘れず」と刻まれています。豊畑小学校の校歌も完が作詞し、子どもたちの良さを謳い上げています。



加瀬完著書



歌碑